

横須賀芸術劇場少年少女合唱団「訪問コンサート」in横須賀うわまち病院

平成22年 5月13日(木)18:30開演

指揮:武田雅博 ピアノ:淵上千里



横須賀芸術劇場少年少女合唱団は、横須賀うわまち病院にて訪問コンサートを行いました。

このコンサートは、横須賀芸術文化財団が地域に根ざした活動を目指し、3年前からスタートしました。福祉施設などを訪れ、日頃劇場にお越し頂けない方や地域のみなさんに歌声を届け、音楽を通じた交流を図っています。3回目となる今回は初めて病院を訪問。入院されている患者のみなさんとそのご家族、ならびに外来患者の方々を前に、中学1年生以上の45名の団員による約1時間のミニコンサートを行いました。



リハーサル

本番に先立ち、リハーサル。いつも歌っているコンサートホールと異なり、本番では目の前にお客様が座ります。「聞いてくださる皆さんを見て歌って!」「明るい表情で!」先生からの指示にみんな集中します。またコンサートでは歌をより一層楽しんでもらうために、団員たちが1曲ずつ自分で考えた楽曲の紹介を行うことになっています。担当の団員たちは本番直前まで何度も控え室で練習を繰り返し、「私の声、ちゃんと届くかしら?」「もう少し笑顔で話したほうが良いよ。」とお互いに最終チェックに余念がありません。

いよいよ本番! 練習の成果を披露します



コンサートの始まりです。たくさんのお客様を前にやや緊張気味の団員たち。

前半では、「アレルヤ」「歌のつばさに」「ハンガリアン・ダンス」など誰もがどこかで耳にしたことのあるクラシックの名曲ばかりを6曲披露。どの曲にも美しい日本語の歌詞が付いています。患者の皆さんも情景が浮かんだのでしょうか。目を閉じて聞き入った様子の方も見受けられました。後半では「早春賦」「浜辺の歌」など馴染みの深い日本の名曲も。口ずさむ人や足でリズムを取る人、みなさん思い思いの様子で聞き入っていました。

団員たちも患者さん達のリラックスした姿を見て、だんだんと緊張がほぐれて来たようです。

交流タイム～患者のみなさんも一緒に歌いましょう！～



演奏が終わると、交流タイム。団員たちが患者のみなさんの中に入ります。「私たちの演奏はいかがでしたか？」「知っている曲はありましたか？」と声をかけると、曲を聞いていた時とはまた違った楽しそうな表情に、団員たちからも自然と笑顔がこぼれました。なかには以前に合唱をされていた方も！声をかけた団員と同じメゾ・パートを歌っていたとのこと、思いがけない共通点に話が弾みます。

交流タイムの最後は、歌詞カードを見ながら「ふるさと」を斉唱。患者さんからも大きな歌声が聞こえてきました。



最後に武田先生からサプライズのお話が。「実は、この少年少女合唱団を5年前に卒業した人が現在、このうわまち病院で勤務をされています！」

先生に促され、恥しそうに看護師の渡部さんが前へ出てくると患者のみなさんと病院関係者から驚きの声があがりました。そして最後のアンコール曲「友だちはいいな」「元気に笑え」では渡部さんも交えて演奏。ひときわ大きな拍手をいただきました。

「私たちの歌声を聴いて、早く元気になってほしい」そんな願いを込めて本番に臨んだ団員たち。思いはみなさんに届いたでしょうか？これからも横須賀芸術劇場少年少女合唱団では地域に根ざした活動を目指し、一人でも多くのお客様に音楽を楽しんでいただけるよう練習に励んでいきます。

